

# わたしの 効果倍増! 教材活用術

## 「心を育てる道徳ノート」と その活用について

徳島県鳴門市立林崎小学校

楠茂宣

はじめに

みなさんの学級では、道徳の時間に「道徳ノート」を使っているでしょうか。

「当然」「時々」「ワークシートで代用」「使っていない」…。ひよっとしたら「心のノート」があるじゃないか」などという答えが返ってくるかもしれません。

すべての教育活動において取り組む道徳教育の充実を考えると、「道徳ノート」は、道徳の時間の学習活動を深め、家庭へと広げ、さらには次の

学年へと続ける上で大きな役割を果たすものです。私は、平成12年度より、道徳の時間の多様な展開に対応し、道徳教育を保護者と共にすすめる



▲どうとくノートA 1・2年

「心を育てる道徳ノート」(新学社)

B5版64ページ/モノクロ/定価(税込):160円

▼道徳ノートB 3~6年



ことができるように、そして子どもが自らの心の成長を実感することができるように、それまでの市販のノートを利用した道徳ノートに代わる、ポートフォリオ形式の新しい道徳ノートの開発をすすめてきました。実践の中で工夫し、改良を重ねてきた道徳ノートは、現在新学社より「心を育てる道徳ノート(低学年用・高学年用)」として商品化され発売されています。今回は、この「心を育てる道徳ノート」とその活用について紹介します。

### 1 「心を育てる道徳ノート」の実際

「心を育てる道徳ノート」は、次のようなページで構成されています。

①「どんな人になりたいのか」を考えることができるページ

道徳の時間をスタートさせるにあたって、子どもたちは道徳の時間を通じて、学級としてのめあてや自分のめあてをノートに書きま

す。これは、「どのような人になりたいのか」、言い換えるなら、「人間としてどのような生き方をしたいのか」という目標を明らかにすることでもあります。そこで、これらを書くスペースを最初のページに設け、常に見ることができるようになりました。

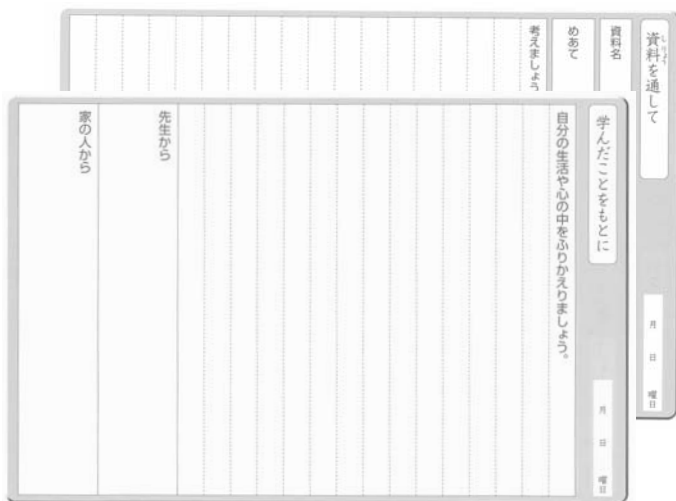


日々の授業で使う教材や教具。隣のクラスや隣の学校のあの先生は、一体どんな使い方をしているのでしょうか？ このコーナーでは、気になる教材活用術を紹介します。

## ②主に道徳の時間で活用するページ

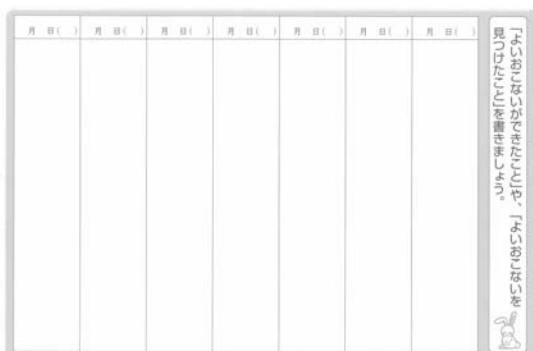
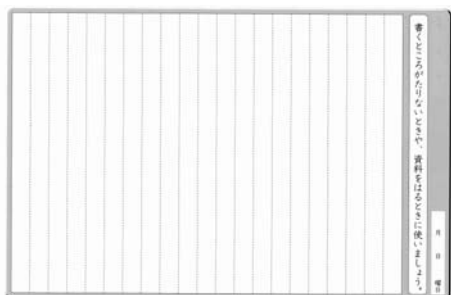
道徳の時間には、資料をもとにした自分の意見や友達の見解、授業の流れや板書のポイントを書くようにします。

あわせて、道徳の時間で学んだことに対する教師や保護者の考えや意見も書くことができるようにしました。



## ③道徳的实践を記録することができるページ

ここには、毎日の生活において道徳的な実践ができたことや、他の人のよい行いについて気がついたことを記録するようにしました。これは、生活の中での道徳的な実践力を高める上で、大いに役立つものです。



## ④自由に使うことができるページ

ここは、授業に向けて、あるいは授業から発展的に進めた学習活動を記録したり、「総合的な学習の時間」をはじめとする各教科・領域の、道徳の時間に関連する内容や参考資料を記録したり貼

付したりすることができるようにしました。

また、学習活動、あるいは生活の中から集めた資料や授業のプリント・資料の保存（綴じ込み、貼付）ができるようにしました。

## 2 家庭と共に道徳ノートを活用するために

道徳の時間には、道徳的な価値を理解し、自分の生き方について考えを深め、いかにそれを実践していくかを考えていきます。その場合、道徳的な課題を実践できる場面は、学校生活よりも、むしろ家庭や地域社会での生活の中に多くあるものです。そのため、一人ひとりの状況に応じたタイミングのよい支援が必要となります。そこで、子ども・教師・保護者が共に考えながら道徳教育をすすめるために「心を育てる道徳ノート」が大いに役に立ちます。

このノートには、従来の道徳ノートの機能や使い方に加え、先に紹介した様々な機能を持たせています。この「心を育てる道徳ノート」を、ファイルを使い、「心のノート」や副読本と共に収納できるようにしておきます。そして、道徳の時間があった日は必ず家庭に持ち帰らせます。

こうすることによって、道徳教育がすべての教育活動の中で行われていることをはじめ、道徳の時間における子どもたちの考えや心の動きを保護者に知ってもらえます。そして、道徳の資料や「心のノート」に関心を持ってもらい、道徳教育を家庭と共にすすめるのです。

「心を育てる道徳ノート」では、毎時間の道徳の時間に学習した内容と、それを通して道徳的な価値を自覚し、自己の生き方につ

での考えが深まった子どもたちの様子や自己課題について、担任と保護者の考えや意見を書くスペースを設けています。そのため、毎時間家庭と共に道徳教育をすすめていくことができます。

もちろん、保護者の中には、毎回意見を書いてくれない方もいらっしゃいます。むしろ、毎回書いてくださる方が少ないかもしれません。しかし、意見を書く時間的な余裕がなくても、子どもが話す内容を聞いてもらうだけでもよいことをあらかじめ伝えておくようにしましょう。

次に、道徳ノートの保護者欄に書かれた、子どもへの意見や考えをいくつか紹介します。

・新学期最初の授業参観での道徳の学習（オリエンテーション）で「友達がいっぱいい人になりたい」というめあてに対して

「友達は、何にも勝る宝です。つらい時、悲しい時、うれしい時、楽しい時を共有できる友達がたくさん作れたらいいね！」（母より）

・「おれと加代ちゃん」（自作資料）による男女の協力について

「お母さんが○○子ぐらいの時、低学年の頃は、男女関係なく仲良しだったが、学年が上がるに従い、対立するようになった。この理由としては、まさしく『おれと加代ちゃん』。お互いに認め合えず、男子のやることなすことが腹立たしかったのを覚えてい

る。あの時ももう少し歩み寄っていたら、もっともつと楽しく学校生活を過ごせたかもしれない。○○子たちのクラスは、お母さんのときと比べ、皆仲良いように思うけどね。やっぱりちゃんと向き合って話し合うことが大切だと思います」

・「あの日のこと」（自作資料）による公德心について

「いろいろな場所で目をおおつ公衆道徳のなさに、腹をたてたり、文句を言いつつ片付けたりすることも多い私です。中山さん（登場人物）のようにあたりまえと思える（人のためにやってあげているなんてえらそうに思わなくて、自然にふるまえる）自分が気持ちよいいと思えることを、みんなのために快く行動にうつせる人になりたいですね」

これらの例のように、子どもに伝えられる保護者の意見や考えは、道徳の時間の内容をもとに、自分の生活経験に基づく具体的な考えを述べたものから、自分の心を見つめたものまで様々です。しかしどれも、わが子が人間としてのよりよい生き方ができるようになることを願う気持ちにあふれたものです。

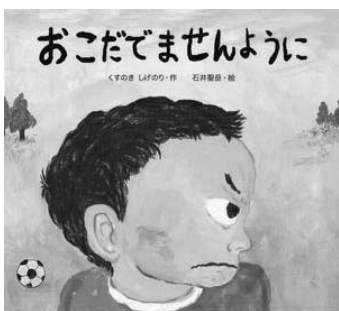
このような保護者の思いは、子どもたちにとって、あるときは道徳的価値の自覚や自己の生き方についての考えをさらに深めるものとして、またあるときは道徳的実践の意欲をさらに高めるものとして働きます。そして、担任にとって、こうした保護者の真摯な考えや子どもたちの心の成長を願う思いに触れる

ことは、毎回の道徳の時間を通して保護者と共に子どもたちの心を育てることの大切さを痛感するものとなります。

### おわりに

2009年の6月に、1・2年生の各学級で、その年の全国青少年読書感想文コンクールの課題図書になった私の著書『おこだでませんように』を読み聞かせ、一人ひとりに七夕の願いを書いてもらいました。その時に、あわせて「心を育てる道徳ノート」にある「どんな人になりたいのか」を考える時間をとりました。そしてその時の子どもたちの思いを個人懇談で保護者に伝えました。

保護者は、わが子の心の動きや人間としての成長に対して、不安と共に大きな関心があります。ぜひ「心を育てる道徳ノート」を活用し、子どもたち一人ひとりの道徳の時間の心の動きや考え、そしてそれに関わる資料や学校生活の様子などを保護者に伝えながら、道徳教育を家庭と共にすすめていきましょう。



「おこだでませんように」  
作／くすのぎしげのり 絵／石井聖岳  
発行／小学館 1,575円（税込）

☆詳しくは23ページを御覧ください。